

セトナ皇子（仮題）

中島敦

青空文庫

メムフィスなるプタの神殿に仕うる書記生兼図案家、常にウシマレス大王に変らざる忠誠を捧ぐる臣、メリテンサ。謹んで之を記す。この物語の眞実なることを、あかしし給う神々の御名は、鷹神ハトル、鶴神トト、狼神アヌビス、乳房豊かなる河馬神アピトエリス。

百合の国上埃及エジプトの王にして、蜂の国下埃及の王、アモン・ラーの化身、輝けるテーベの主、ウシマレス大王の一子セトナ皇子は、夙つとに聰慧の誉れが高い。八歳の時、彼は神々の系譜を論じて宫廷の博士共を驚かせた。十五歳以後は、最早あらゆる魔術と呪

文とに通じた博学の大賢者として天の下に並ぶものもない。

一日、古書を渉猟^{しょうりょう}中、ふと、ある疑いにとらわれた。今迄、全然考えたこともなかつた疑だけに、初めは、邪神セツトの誘惑ではないかと思つて、それを斥けようとした。しかし、其の疑は執拗に彼の心から離れなかつた。ニイルの川の源から、その水の流れ注ぐ大海に至る迄の間に、セトナ王子のしらないことは何一つ無い筈である。地上の事に限らず、死後の世界に就いても、彼程、^{つうぎょう}通曉^{つうきょう}している者はない。冥府の構造から、オシリス神の審判の順序から、神々の性行から、オシリス宮の七つの広間、二十一の塔の間やその守衛者の名前迄悉く誦んじている。だから彼の疑は、そんな事に就いてではない。古書を拝げてゐる中に、ひ

よいと或る不安が彼の心を掠めた。はじめは、その正体が分らなかつた。何でも彼の今迄蓄えた全智識の根柢をゆるがせるような不安である。何を考えていた時に、そんな奇怪な陰が過ぎつたのか？　彼はたしか、最初の神ラーの未だ生れない以前のことを見み、且つ考えていた。ラーは何処から生れたか？　ラーは太初の混沌ヌーから生れた。ヌーとは、光も陰もない、一面のどろどろである。それではヌーは何かから生れたか。何からも生れはせぬ。初めから在つたのである。此処迄は、子供の時からよく知つてゐる。しかし、今、古書をひろげてゐる中に、妙な考えが浮かんだ。初めにヌーが何故あつたか？　無くとも一向差支えなかつたのではないかと。不安の因もとになつたのは、これだつた。この考えが浮

んだ時、奇怪な不安の翳が、心を掠めたのである。

何を馬鹿馬鹿しい、とはじめは嗤い棄てようとしたセトナ王子も、暫く考えている中に、この疑問が決して馬鹿にならないのに気がついた。馬鹿にならないどころか、この疑は、春の沼辺の水草の根の様に、見る見る、彼の心中に根を張り枝を伸ばしていく。世界開闢説についてばかりではない。日常目にする凡てのこと、この疑いが、からみつく。エチオピアの金糸蛇の長い尾のように、何故在ったか。無くとも良かつたろうに。何故在るか、無くとも良いだろうに。セトナ皇子は今迄の勉強に輪をかけて、古文書や墓碑銘を熱心に漁り出した。それ等の中にこの疑いを解く鍵を見出そうとしたのである。彼の努力は無駄であつた。

岸壁の洞穴に行います高名な魔術師も、年老いてアモン・ラの心を体したといわれる高僧も、王子の間に答えることが出来ない。王子は次第に笑わなくなつた。いつも、夕暮の湖の紅鶴のように、しょんぼりと考えこんでいる。ヒタ族の国から連帰つた女曲芸師の演技も最早彼の心を惹かなくなり、浴の後にプント国から到来の妙なる香油を塗ることも止めてしまつた。じらい爾來、花と咲誇つたテーべの宫廷は闇となつた。セトナ王子の智慧が、愁の雲に遮られて、言葉の光を放たなくなつたからである。

以後、王子は何事もいわず、何事をも行わず、蟻の木偶でくのようになつて一生を終つた。死ぬ迄の間に彼のしたことは、たつた一つ。それは、頭に火皿をのせ、手に二股の杖をついて、その書

物をネフェルカプターの墓所へ返して行つたことである。王子から書物を受取つた時、ネフェルカプターの木乃伊^{ミイラ}はニヤリと笑つた。妻アーウリの木乃伊も黙つて笑つた。皇子は物もいわず、真蒼な顔で外へ出て來た。墓所の入口の扉を閉めた時、彼は、後の世の人々がこの書物によつて再び、不幸に陥ることがあつてはいけないと思つた。彼は扉のとじ目に魔法の封をした上、或る呪文によつてその墓の入口が全然人目につかないように変えて了つた。

今に到るまで、この本の所在を知るものが無いのは、斯うした訳である。

青空文庫情報

底本：「中島敦全集3」やくま文庫、筑摩書房

1993（平成5）年5月24日第1刷発行

初出：「中島敦全集 第四巻」文治堂書店

1959（昭和34）年6月

※底本の題名の下に書かれている「（仮題）」は文治堂版全集編
集者によつて付けられたものです。

入力：小池健太

校正：小林繁雄

2014年2月14日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたつたのは、ボランティアの皆さんです。

セトナ皇子（仮題）

中島敦

2020年 7月13日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>